

日本共産党の杉本県議は12月9日、新型コロナウイルス感染症対策および伊吹山の採掘について、県議会一般質問をおこないました。

## 新型コロナに本気で立ち向かっているか！

### コロナ対応最前線の保健所の拡充は最優先・喫緊の課題



#### 感染症の流行は今後も続く

新型コロナウイルスの感染が拡大しています。一部の国でワクチンの接種が始まりましたが、抗体依存性免疫増強などの副作用も心配されています。新型コロナウイルス感染症はまだまだ長引く可能性が大きく、今後も新たな感染

症が度々大流行することも予測されます。

#### 弱体化されてきた保健所

県の感染症対策の最前線にあっているのは保健所と地方衛生研究所です。ところこれらの機関は、新自由主義的「行革」の対象とされ、統廃合と職員削減が続けられ、弱体化しています。滋賀県でも近江八幡と木之本の保健所を廃止。保健所の職員数は205人から133人にまで減らされました。今日の新型コロナウイルス感染症の拡大は、感染症対策の脆弱性を白日のもとにさらしました。どの保健所でも、休みなしの新型コロナ関連業務に追われ、通常業務は必要最低限にとどめています。

#### 最大の責務は人々の命を守ること 公衆衛生の部署の強化が必要

憲法25条は生存権の保障を明記し、新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、人々の命を守ることが国や県の最大の責務として迫っています。したがって、保健所や地方衛生研究所など公衆衛生に係る組織の強化・拡充は、県民の命を守るための最優先・喫緊の課題となっています。

#### 4月から正規職員を増やすのか

この間の議会答弁で知事は、保健所の計画的な体制強化の必要性に言及しています。そこで杉本県議は「どう拡充を図っていくのか。来年度4月から職員定数を見直し、正規職員を抜本的に増やすのか」と質しました。知事は「決定しているわけではないが必要性を検討している」という答弁にとどまりました。

#### まったなし！彦根保健所の改善

彦根保健所は住宅街の真ん中にあり、築60年、雨漏りもする、駐車台数は10台余りの狭い敷地、PCRは建物と建物との外でやっている、しかもここは福祉事務所として郡部の生活保護業務も行っています。杉本県議は「コロナ対策の最前線に立つ保健所がこれでいいのか。同じ彦根でありながら200億円超の陸上競技場整備とは雲泥の違い。早期に、新しい場所で改築すべきだ」と知事に迫りました。知事は「県保健医療計画の中間見直しを来年度実施するが、2次保健医療圏域の議論を行う中で保健所の在り方についても検討する予定」と答弁。杉本県議は「そ

んな悠長なことでもいいのか。本気で感染症から県民を守る意思があるのかが問われている」と批判しました。



老朽化した彦根保健所

#### すぐに衛生科学センターの改善を

PCR検査等をおこなう滋賀県衛生科学センターも同様に、老朽化、人員不足の深刻な問題をかかえています。知事は「改築を含め、施設のあり方を考える」としていますが、杉本県議は「今後も起こりうる危機的状況に対応できる余裕をもった体制の早期整備が必要」と強調しました。



滋賀県衛生科学センターを視察



# 伊吹山の採掘を問う

新型コロナ・びわ湖の全層循環停止…

自然環境を守ることが求められている

今問題になっている新型コロナウイルス感染症のパンデミックも琵琶湖での2年連続全層循環の未確認も、背景に地球規模での環境破壊があります。資本主義が利潤第一で自然環境の破壊をどんどん進めることによって地球温暖化が進行し、新しい感染症が次々と現れています。自然環境を守るとは人類の生存にかかわる重大問題となっています。

## 伊吹山採掘 68年間に1億800万トン

伊吹山は日本の百名山の一つであり、滋賀県を代表する山です。ヤマトタケルノミコトの伝説は有名ですが、1952年(昭和27年)から68年間削られ続けています。標高1,240メートル付近から採掘が始まり、現在では930メートル付近で採掘されており、採掘総量は1億800万トンにのぼります。東海道新幹線や北陸線の車窓から見る伊吹山はあまりにも痛々しい姿をさらしています。17年前にセメント工場が休止してから、「もう採掘がされていない」と思っている人が多数いますが、今日でも毎年100万トン以上採掘がおこなわれており、今後もずっと続けられます。

## 風景は人間形成に大きな影響

### 25小中高の校歌に伊吹山が謳われる

「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」は、「美しい琵琶湖、そのまわりに広がる田園、これらをとるまく山々…湖国の風景は、わたしたちにこころのよりどころと安らぎを与え、ふるさととしての愛着をはぐくんでくれたものであり、滋賀の貴重な資産であるとともに、未来からのあずかりものである」とし、「しかるに、ともすれば機能性や経済性を追い求めてきたあまり、徐々に郷土の風景は変貌し、ふるさとのよさが失われつつある」「風景は、自然と歴史と生活に支えられた地域の文化を物語るものであり、そこに住む人々の人間形成に大きな影響を与えるものである」「これを次代に引き継いでいくことを決意し、ここに条例を制定する」としています。

長浜市と米原市にある6高校、5中学校、14小学校…じつに25もの学校の校歌に伊吹山が謳われています。伊吹山から連なる大地に育まれる湖北の人々にとって、太陽は伊吹山から昇り、琵琶湖に沈む、心の原風景がここに 있습니다。この山が削りとられることに、心を痛めている人はたくさんいます。



## 「山の知事」が試されている

杉本県議は「滋賀の風景条例の精神に真っ向から反する石灰岩の採掘による伊吹山の変容について、知事はどのような所見を持っているか」と質問。三日月知事は「自然環境や景観はしっかりと保全していかなければならないと考える。一方で、伊吹山の採掘は地域産業を支える鉱物資源の安定供給という役割もあり、どのように折り合いをつけるのかが大切ではないかと認識している」と答弁。杉本県議は「山の姿が変わっていることについてどう考えるか」と再質問。知事は「複雑な心境です」と答弁。杉本県議は、「山の知事の真価が問われている」と指摘しました。

## 伊吹山採掘はどこかで終止符を打つべき

杉本県議は「この環境破壊はどこかで終止符を打つべきだと考えるが知事の所見を問う」と質問。知事は「鉱業権の行使として行われているものであり、石灰石の安定供給という重要な役割を果たしていると理解している。これらの利用の観点と自然環境の保全の観点とのバランスの適正化を図っていくことが大切だ。今後とも、事業者と協議会の場でよく話し合い、伊吹山の環境や景観に最大限配慮し、必要最小限度の採掘、効果的な緑化事業が推進されるよう働きかけていきたい」と答えました。

杉本県議は、「びわ湖の全層循環が2年連続おきなかったことについて知事は『地球温暖化の問題を真剣に考えなければならぬ』としている」と指摘し、「滋賀県で地球温暖化の問題を真剣に考えるなら、県を代表する山の破壊を放置しておくことはできないはずだ。否応なしに飛び込んでくる自然破壊そのものの光景が子どもたちの心に影響を与えないわけがない。伊吹山の採掘を止め、原状回復への努力を行い、緑深い山に戻すことこそ求められている。鉱業権は国の専管事項だが、環境や風景を守ることは自治体の責任だ」と指摘しました。

最後に杉本県議は、「滋賀県議会で伊吹山の採掘中止が正面に取り上げられたことは今までにない。しかし、これは湖北の人々の『声なき声』である」とし、県民的議論の喚起を求めました。

